

(再評価)

てしお こうほんこうち く
天塩港 本港地区 国内物流ターミナル整備事業

再評価原案準備書説明資料

令和3年度
北海道開発局

目 次

1. 事業の概要	1
2. 事業の必要性等	3
3. 事業進捗の見込み	10
4. 地方公共団体等の意見	11
5. 対応方針(案)	12

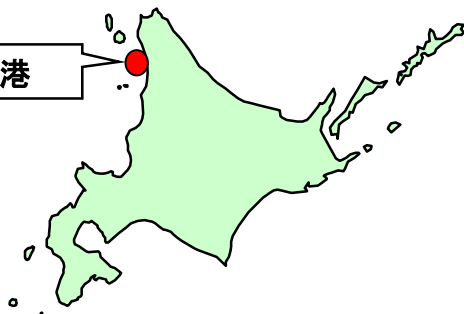
1. 事業の概要

(1) 事業の目的

- 天塩港は、北海道北西部の日本海に面し、天塩町が管理する地方港湾。
- 本事業の目的は、岸壁の整備による船舶の輸送効率化及び漂砂対策施設の整備による維持浚渫費用の削減。

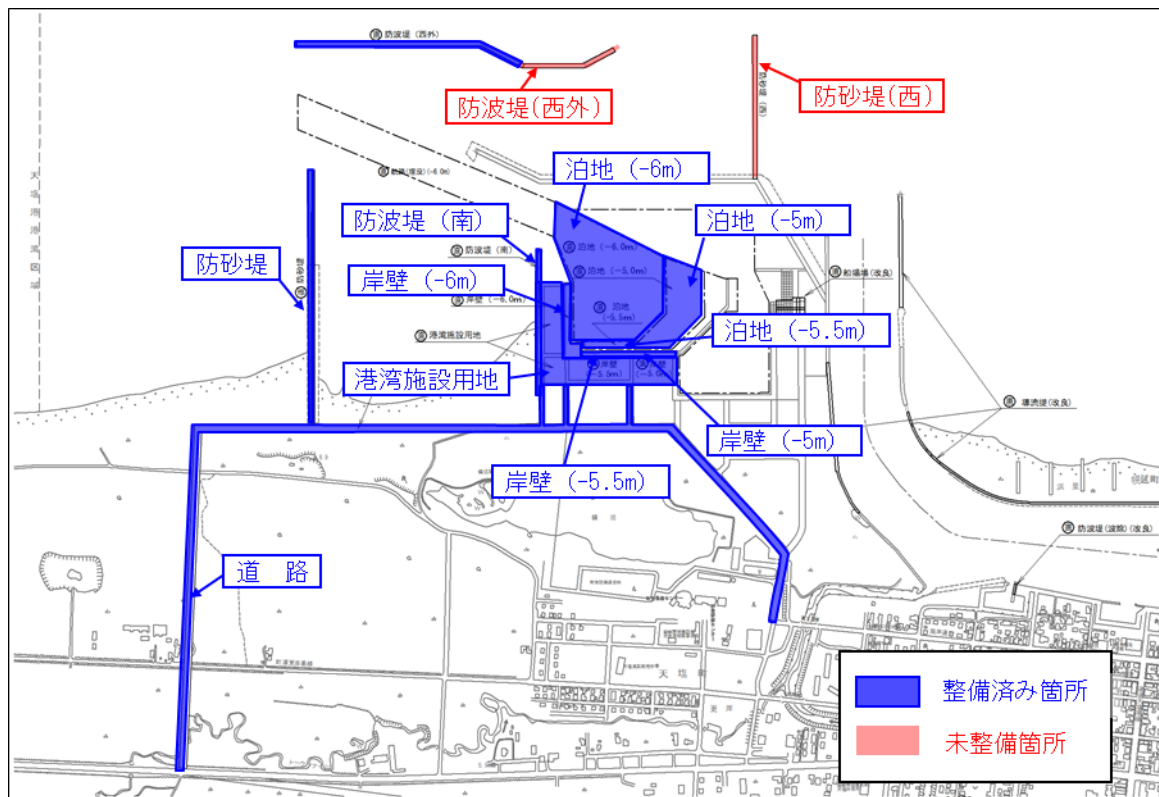
位置図・航空写真

天塩港



©Airbus DS/Spot Image 2020
天塩港 全景

事業の概要図



1. 事業の概要

(2) 計画の概要

事業主体	施設名	規模	整備期間
国 本港 地区	防波堤(西外)	700m	H5~R11
	防波堤(南)	70m	S63
	防砂堤	500m	H3~H16
	防砂堤(西)	310m	R7~R11
	岸壁(-6m)	153m	S63~H2
	岸壁(-5.5m)	100m	H3
	岸壁(-5m)	95m	H4~H5
	泊地(-6m)	58,400m ² 680,000m ³	S63~H13
	泊地(-5.5m)	1,800m ² 32,00m ³	H3~H13
	泊地(-5m)	12,100m ² 66,000m ³	H5~H13
	道路	6.5m × 3,040m	H2~H14
	港湾施設用地	27,120m ²	S63~H5

(3) 経緯

1988(昭和63)年度	事業採択、現地着工
1992(平成4)年度	岸壁(-6m)(-5.5m)供用開始
1994(平成6)年度	岸壁(-5.5m)供用開始
2000(平成12)年度	評価の実施
2005(平成17)年度	再評価の実施
2010(平成22)年度	再評価の実施
2013(平成25)年度	再評価の実施
2016(平成28)年度	再評価の実施
2021(令和3)年度	再評価の実施
2029(令和11)年度	事業完了予定

○総事業費 224億円

○残事業費 42億円

○整備予定期間 昭和63年度～令和11年度

○整備進捗率 81%

2. 事業の必要性等

(1) 事業を巡る社会情勢等の変化

【対象港湾周辺の動向】

平成15年
「道の駅てしお」開業

平成18年
「宗谷シーニックバイウェイ」指定

平成20年
「萌える天北オロロンルート」
(シーニックバイウェイ) 指定

平成28年
「日本のてっぺん。きた北海道ルート」
広域周遊ルートに指定

平成29年
「天塩川シーニックバイウェイ」指定

令和2年
「みなとオアシスるもい」登録

出典：るしんふれ愛パークHP

出典：きた北海道広域観光周遊ルート推進協議会

出典：稚内市役所HP

主要広域観光ルート
広域観光拠点地区
広域観光促進地域

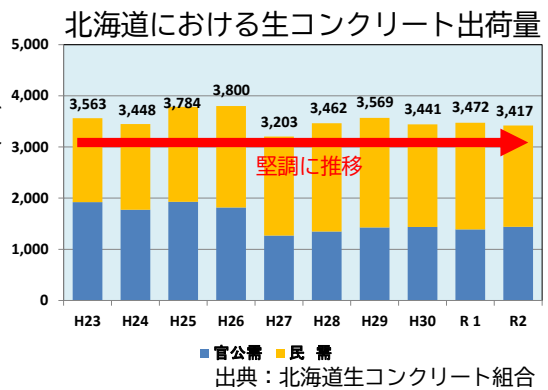
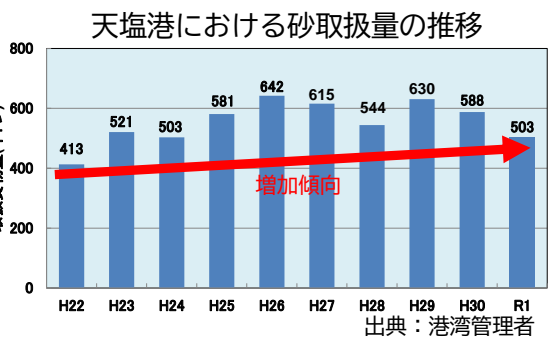
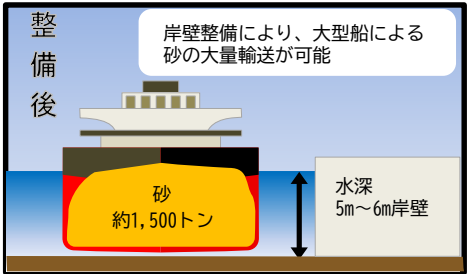
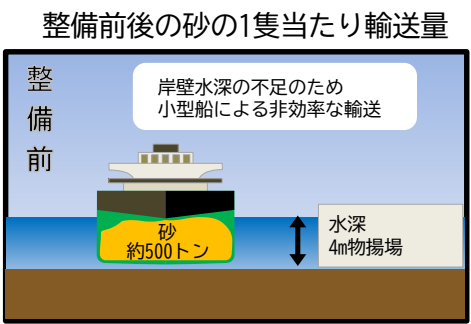
主要ゲートウェイ施設

奥尻島 天塩川 旭川 富良野 十勝 千歳 浦河 根室 納沙布岬 歯舞群島

2. 事業の必要性等

(2) 事業の整備効果(基幹産業の支援①砂生産業)

- 天塩産の砂は、天塩港から主に石狩湾新港へ移出され、札幌圏の大型建設プロジェクト等に用いられる高強度コンクリート用骨材として使用されている。
- 天塩港における岸壁の整備により、大型船舶による効率的な砂の移出が可能となり、天塩町の基幹産業である砂生産業の支援が期待される。



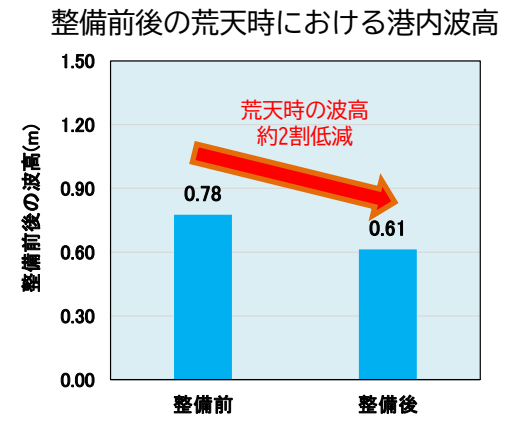
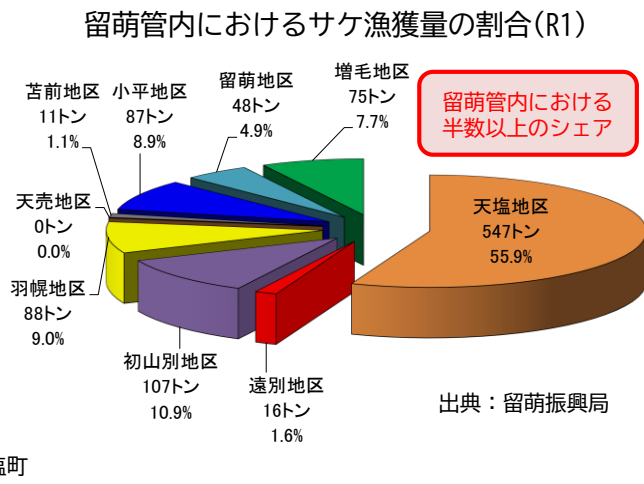
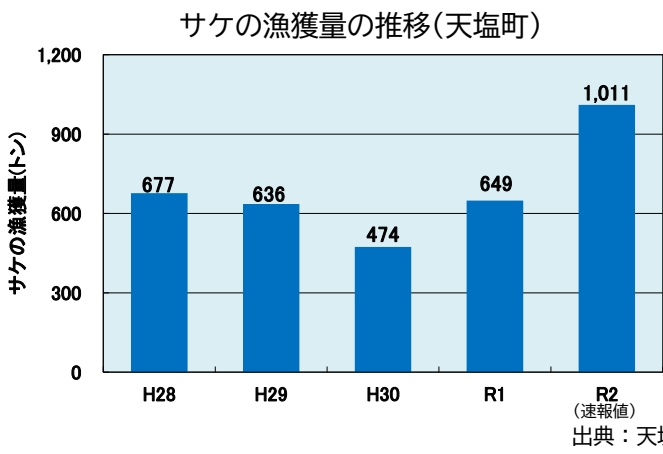
■地域の声(R3: 生コン工場、砂運送企業)

・天塩産の砂は、粒度分布が生コンクリート製造に適しており、道内での骨材需要が高いです。このため、大規模建設プロジェクトに用いられる高強度コンクリートの製造には不可欠です。今後も定期的に供給されることを期待しています。

2. 事業の必要性等

(2) 事業の整備効果(基幹産業の支援②水産業)

○防波堤の整備により、サケ漁等の安全な水産活動が図られるとともに、シジミを筆頭とした内水面漁業と併せた天塩港周辺の水産業の安定化が期待される。



サケの水揚げ
出典：天塩町



シジミラーメン

※特産品である天塩産ヤマトシジミは粒が大きく、濃厚な味で日本一と謳われている。
出典：上川総合振興局HP

- ・鏡沼しじみまつり
- ・開催時期：令和元年7月
- ・来訪者数：1万4千人

出典：国土交通省HP

■地域の声(R3:サケ漁漁業者)
・これまで漁に出る際は慎重に出港しなければならなかったが、西外防波堤の延伸により静穏度が向上し、安全に漁が行えるようになったことは大変ありがたいと思っています。

2. 事業の必要性等

(2) 事業の整備効果(利礼航路のリダンダンシー確保)

- 平成24年3月、流氷により稚内港が閉塞したため、稚内ー利尻・礼文のフェリー航路が5日間欠航となり、島民の生活に大きな影響を与えた。このため、天塩ー利尻・礼文の臨時便が運航され、島民延べ112人が乗船した。
- 以降、稚内港閉塞による利礼航路の欠航は発生していないが、フェリー運航企業と天塩町は、天塩港の活用について毎年協議しているところ。
- 防波堤の整備により、天塩港内の静穏度向上や航路・泊地の埋没が解消することで、フェリーの受入れが可能となり、利礼航路のリダンダンシーの確保が期待される。



■地域の声(R3:利尻島住民)
 ・フェリー航路は、われわれ島民にとってなくてはならないものです。天塩港の整備により、いざという時に北海道本土までのフェリー航路が確保されることは、大変助かります。



利礼フェリー・天塩港に臨時便

生活航路再開に安堵

バス誘導などで混乱も

【天塩】稚内市内の流氷で欠航になった利礼・礼文航路が13日、27年ぶりに天塩港着の臨時便が運航された。8日午後から欠航が続いていたため、生活航路の再開に乗客らは安堵を覚えた。一方、乗客への連絡や船での混乱も見られた。

（八崎町報、西暦報道員）

「天塩」稚内市内の流氷で欠航になった利礼・礼文航路が13日、27年ぶりに天塩港着の臨時便が運航された。8日午後から欠航が続いていたため、生活航路の再開に乗客らは安堵を覚えた。一方、乗客への連絡や船での混乱も見られた。

（八崎町報、西暦報道員）

「天塩」稚内市内の流氷で欠航になった利礼・礼文航路が13日、27年ぶりに天塩港着の臨時便が運航された。8日午後から欠航が続いていたため、生活航路の再開に乗客らは安堵を覚えた。一方、乗客への連絡や船での混乱も見られた。

（八崎町報、西暦報道員）

「天塩」稚内市内の流氷で欠航になった利礼・礼文航路が13日、27年ぶりに天塩港着の臨時便が運航された。8日午後から欠航が続いていたため、生活航路の再開に乗客らは安堵を覚えた。一方、乗客への連絡や船での混乱も見られた。

（八崎町報、西暦報道員）

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析～事業全体)

●条件 基準年:令和3年度 供用期間:50年

●総費用(現在価値化後) (億円)

費用内容	総費用
○建設費	586.9
○管理運営費	63.0
合計	649.9

●総便益(現在価値化後) (億円)

便益内容	便益費
○陸上輸送コストの削減	1,101.4
○航路・泊地の維持浚渫費の削減	19.4
○残存価値	50.5
合計	1,171.3

※端数処理のため、各項目の金額の和は、合計欄に記入している数字と必ずしも一致するとは限らない。

●算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{1,171.3}{649.9} = 1.8$
----------------	---

●感度分析

変動要因	基本ケース	変動ケース	費用便益比
需要	1.8	±10%	1.8~1.8
事業費	1.8	±10%	1.8~1.8
事業期間	1.8	±10%	1.7~1.9

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析～残事業)

●条件 基準年:令和3年度 供用期間:50年

●総費用(現在価値化後) (億円)

費用内容	総費用
○建設費	31.3
○管理運営費	2.0
合計	33.3

●総便益(現在価値化後) (億円)

便益内容	便益費
○航路・泊地の維持浚渫費の削減	61.6
○残存価値	11.9
合計	73.6

※端数処理のため、各項目の金額の和は、合計欄に記入している数字と必ずしも一致するとは限らない。

●算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{73.6}{33.3} = 2.2$
----------------	---

●感度分析

変動要因	基本ケース	変動ケース	費用便益比
需要	2.2	±10%	2.0~2.4
事業費	2.2	±10%	2.0~2.5
事業期間	2.2	±10%	2.2~2.3

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析 前回評価との比較)

		H28再評価時点	R3再評価時点	備考 (前回評価からの主な変更点)
事業費(億円)		224	224	
整備予定期間		昭和63年度～ 令和11年度	昭和63年度～ 令和11年度	
便益の対象となる 需要予測	便益対象 貨物	532千トン/年 (令和12年度)	576千トン/年 (令和12年度)	・需要予測の見直しによる増
便益(現在価値化後) (億円)		(856)	1,171	
B/C		(2.1)	1.8	

3. 事業進捗の見込み

○昭和63年度から令和3年度までの整備状況

(事業費:億円、数量:m、m²)

施設名		全体事業	実施済	残事業	進捗率 (%)	備考	施設名		全体事業	実施済	残事業	進捗率 (%)	備考
防波堤(西外)	事業費	130	111	19	85.40%	継続	岸壁(-5m)	事業費	2	2	—	100.00%	完了
	数量	700	598	102				数量	95	95	—		
防波堤(南)	事業費	3	3	—	100.00%	完了	泊地(-6m)	事業費	15	15	—	100.00%	完了
	数量	70	70	—				数量	58,400	58,400	—		
防砂堤	事業費	33	33	—	100.00%	完了	泊地(-5.5m)	事業費	0.2	0.2	—	100.00%	完了
	数量	500	500	—				数量	1,800	1,800	—		
防砂堤(西)	事業費	25	0	25	0.00%	継続	泊地(-5m)	事業費	2	2	—	100.00%	完了
	数量	310	0	310				数量	12,100	12,100	—		
岸壁(-6m)	事業費	3	3	—	100.00%	完了	道路	事業費	9	9	—	100.00%	完了
	数量	153	153	—				数量	3,040	3,040	—		
岸壁(-5.5m)	事業費	2	2	—	100.00%	完了	港湾施設用地	事業費	0.6	0.6	—	100.00%	完了
	数量	100	100	—				数量	27,120	27,120	—		

※「数量」は、現地着工した整備施設の事業費による換算数量とし参考値とする。

○事業の進捗の見込み

本事業にかかる関係機関との調整は整っています。
 事業進捗率は81%となっており、事業が順調に進んだ場合には、
 令和11年度の完了を予定しています。

※事業進捗率は、事業費変更後の進捗率(令和3年10月時点)。

4. 地方公共団体等の意見

○利用者、港湾管理者からの意見

期成会等名称	会長等	主な構成メンバー	要望内容
北海道留萌地域総合期成会	留萌市長	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、天塩町	天塩港：船舶航路の安全確保のための水深6m航路浚渫や西外防波堤の整備促進

○港湾管理者(天塩町)からの意見

対応方針につきましては、特段の異議はありません。

天塩港は、道内のコンクリート需要を支える港湾として重要な役割を果たしております。

しかし、漂砂の港内堆積は依然として継続しており、航路の安全確保対策など、喫緊の大きな課題となっております。

当該整備事業の継続につきまして、特段のご配慮をお願い申し上げます。

5. 対応方針(案)

- ・天塩港本港地区国内物流ターミナル整備事業は、背後圏域における地域経済の活性化のみならず、札幌圏における大規模構造物の高質化にも寄与する事業であると考えられます。
- ・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案としてお諮りいたします。
- ・引き続き、コスト縮減を取り組むとともに、適正な事業費及び事業期間の管理に努めていきます。